

## 第 22 回 地球環境再生植林フォーラム



～フィリピン ネグロス島（静岡県）コース～



第 22 回地球環境再生植林フォーラムはフィリピンのネグロス島で実施することになりました。

昨年 11 月のフィリピン中部を襲った台風は日本では想像もできない風速 90 メートルを越え、気象津波といわれる高潮をもたらし、大きな被害がありました。そんな中で、奇跡的に助かった島がありました。実は、オイスカ静岡県支部が 1989 年に植林したモロカボック島です。そのマングローブが住民の命と財産を守ったのです。隣の島は跡形もなく地上の物はすべて洗い流され、地元では大きな話題になりました。そのことを昨年暮れ、わざわざ報告のために西ネグロス州知事が来日されました。

今回は被災地の復興植林と、住民の皆さんを激励し、併せて、オイスカの開発協力現場訪問を計画しました。多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

2014年7月30日（水）～8月4日（月）5泊6日

企画団体：オイスカ静岡県支部／担当：内山恵美子、亀山近幸

TEL：053-464-0339 FAX：053-463-0316

旅行実施：SBS ツアーズ／担当：染谷（そめや）

〒422-8061 静岡市駿河区森下町 1-35 静岡MYタワー

TEL：054-260-7902 FAX：054-284-2400

【スケジュール】

日	日付	発着地・滞在地	時間	交通機関	スケジュール	食
1	7/30 (水)	静岡県内 発 中部国際空港 着 マニラ 着 発 バコド 着	早朝 07:00 09:35 12:45 15:30 16:45 17:45	貸切バス PR437 PR2907 専用バス	沼津IC:3時頃、静岡IC:4時頃、オイスカ高校:5時頃出発予定 着後、チェックイン。団体待合室にて結団式。 フィリピン航空(エコミークラス)にて空路、マニラへ。 着後、入国手続き、国内線に乗り換え。 フィリピン航空(エコミークラス)にて空路、バコドへ。 着後、バコド市内のホテルへ。 ホテルチェックイン ＜バコド市泊＞	×
2	7/31 (木)	バコド サガイ 滞在	09:00 09:30 12:00 15:00 18:30	専用バス	西ネグロス州マラニヨン知事表敬訪問 バコド市内見学 オイスカ・バコ研修センターで昼食及び視察 サガイ市へ移動 夕食歓迎会(サガイ市長、オイスカ・サガイ会員参加) ＜サガイ市泊＞	○ ○ ○
3	8/01 (金)	サガイ 滞在	05:30 06:45 07:00 10:00 12:00 14:00 17:30	舟 専用バス	ホテル出発 途中朝食サンドイッチ モロカボック島到着 植林活動 2時間半(海岸でマングローブ植林) モロカボック小・中学校で交流会 ホワイトビーチで昼食 ビーチ出発 バコドへ ホテル到着後 夕食 ＜バコド泊＞	○ ○ ○
4	8/02 (土)	バゴ 滞在	08:30 09:30 13:30 15:00 17:00 17:30	専用バス	ホテル出発 植林活動 2時間(山地での植林) ネグロス牧場視察 マンボカル温泉見学 慰霊塔訪問 ホテル到着後 夕食 ＜バコド泊＞	○ ○ ○
5	8/03 (日)	バコド 発	10:15 11:25	PR2904 専用バス	フィリピン航空(エコミークラス)にて空路、マニラへ 【マニラ市内観光】 リサール公園、サンチャゴ要塞、サンオーガスチン教会など ＜マニラ泊＞	○ ○ ○
6	8/04 (月)	マニラ 発 中部国際空港 着 静岡県内各地 着	13:30 18:30 夜	PR438 貸切バス	フィリピン航空(エコミークラス)にて空路、帰国の途へ。 着後、入国手続き。貸切バスにて静岡県内へ。 オイスカ高校:22時頃、静岡IC:23時頃、沼津IC24時着予定。	○ × ×

※ 航空会社や現地諸事情により、スケジュールや内容が変更になる場合があります。

※ 旅行中、1泊はホームステイも可能です。ご希望の方はお申込書にご記入ください。

【募集内容】

■ 募集人員：40名(最少催行人員15名) ■ 添乗員：全行程同行し、お世話いたします。

■ 参加資格：15歳以上の健康な男女

■ パスポート：残存有効期間が2015年2月04日まで必要です。

■ 参加費用：一般 175,000円 学生 145,000円

※参加費用は一般の方は2名1室使用のお一人様の代金です。

※一人部屋希望追加代金(一般)：15,000円(5泊)

■ 申込締切日：2014年6月30日(月) ※但し、募集人員に達し次第、締め切ります。

■ 事前説明会：2014年7月20日(日) 午後1:30 オイスカ高校会議室



## 【オイスカとフィリピン】

1961年10月6日、オイスカは静岡県の熱海市で産声を上げました。第二次世界大戦後、ヨーロッパやアメリカの植民地から独立を果たしたアジア、アフリカ、中近東 18 カ国から 460 名が参加しました。新しい世界建設の主役になるのだとの熱気が発会式会場にあふれ、『時代の訪れ』を実感するに十分な雰囲気がありました。その後、オイスカの組織はアジアへ、アフリカへ、中近東へ、太平洋地域へと年を追うごとに広まっていきました。我が国における民間外交の始まりでもありました。

その中で、フィリピンの人々も活発に動いて、『日本フィリピン国民親善協約』を結び、全国規模の組織づくりに明確な方向付けをしました。そして、日本と連携した同国の地域開発プログラムが次から次へと打ち出され、積極的な活動を展開。各地に活動の拠点となる研修センターを開設し、多くの若者たちに実務教育の機会が提供されました。オイスカ現地会員組織だけでなく、国や地方自治体とも手を組んだことで、その成果は広く共有されることになりました。

この間、日本からはベテランと青年がペアで数多く派遣され、世代を越えて人材育成や農業技術移転に努めたことで、現地社会に気持ちよく受け入れられ、又、地方自治体と国民が一体となった国際協力の形が出来上がりました。それをオイスカ方式と呼ぶ人もいます。

1990年代に入ってから、地域開発に加えて、山地の植林や海岸でのマングローブ植林、児童生徒に自然環境意識を高めてもらうための『子供の森計画』など環境問題にも取り組み、同国のボランティア調整局に重要なパートナーとして位置づけられ、今日に至っています。

一方、静岡県支部会員の地道な募金活動で建設したバゴ研修センター（フィリピン中部・ネグロス島）は渡辺重美所長を中心に、植民地時代の単一作物栽培型のサトウキビから稲作、野菜栽培への転換に大きく貢献しました。その後、現地の土地柄を活かして、養蚕業にも乗り出し、今では、フィリピンの生糸の 95 パーセントを生産するようになっています。同国の大統領や地域の指導者が頻りに研修センターを訪問しています。このような先輩たちの実績に支えられて、今回の植林フォーラムも開催することができます。旅程の中で出会う現地の人々とじっくりと語り合っただき、これから私たちが、世界の中で、日本の中でどのように振舞っていったらいいかを、考えていただくきっかけとなれば幸いです。

## 【現在のフィリピン情報】

（フィリピン共和国）7, 107の島々からなるフィリピンには美しい風景が散在しています。歴史的にも非常にユニークな国で、ヨーロッパ（スペイン）とアメリカ、それにアジアの生活様式と文化が一堂に会しています。早くからキリスト教（カトリック）の洗礼を受けており、イスラムや仏教国の多いアジアの中では唯一のカトリック教国です。

■面積：29万9, 764平方キロメートル（日本の約8割） ■人口：約8, 624万人

■公用語：フィリピン語。英語は共通語として広く使われています。 ■時差：日本より1時間遅れ。

■通貨：ペソ（1ペソ＝約2円 ※4月15日現在）。

（マニラ／8月） 最高気温31℃・最低気温26℃・降水量486mm。

（東京／8月） 最高気温31℃・最低気温24℃。降水量148mm。

### ■外務省の「海外危険情報」について

渡航先の国または地域によっては外務省が「渡航にあたって、治安の悪化等のため通常の以上の特別な注意が必要とされる」場合に「十分注意してください」という情報を発出している場合があります。この情報は、海外に渡航・滞在される方が自分自身で安全を確保するための参考情報です。この情報は外務省の判断により逐次発出されますので、お申し込みの際にSBSツアーズまたは下記にお問い合わせの上お申し込みください。

○外務省海外相談センター TEL：03-5501-8162 ○外務省海外安全情報 TEL：0570-02-3300

○外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp>

■外務省海外相談センター TEL：03-5501-8162 ■外務省海外安全情報 FAX：0570-02-3300

■フィリピンの衛生状況については厚生労働省「海外渡航者のための感染症情報」ホームページでご確認ください。<http://www.forth.go.jp>

### 【個人情報の取扱いについて】

- （1）当社は旅行申込の際に提出された申込書に記載された個人情報について、お客様との間の連絡のために利用させていただき、お客様がお申しいただいた旅行において運送・宿泊機関などの提供するサービスの手配及びそれらのサービスを受領するための手続きに必要な範囲内で利用させていただきます。
- （2）当社はお申しいただいた旅行の手配のために、運送・宿泊機関及び手配代行者に対し、お客様の氏名・パスポート番号及び住所、電話番号、性別、生年月日をあらかじめ電子的方法などで送付することによって提示いたします。